



長町中は今

夢に向かって全力疾走！長町中

《校訓》

自主
友愛
健康
創造

平成30年3月13日

仙台市立長町中学校

学校だより 第21号

電話：(248)1444

<http://www.sendai-c.ed.jp/~nagajh00/>

319名の巣立ち

第71回卒業証書授与式



3月10日（土）本校体育館にて、第71回卒業証書授与式を行いました。当日はたくさんの保護者の方々と50名を超えるご来賓の方々が見守る中、319名の卒業生が立派に長町中学校を巣立っていきました。

卒業生に一人ずつ卒業証書を手渡した新山校長は、式辞の中で「心の土台づくり」について2つのことを話しました。ひとつは箱根駅伝で優勝した監督の言葉を引用し「人は夢に向かって本気で努力するから成長する。努力を辞めたとき、夢は

消えてしまう。少しずつでも努力することが大切」との言葉と共に「努力の大切さ」について話しました。もう一つは平昌オリンピックでけがを乗り越えて連覇を果たした羽生結弦選手の生き方になぞりながら、「強い意志と感謝の心」について話しました。この2つの言葉を卒業生に向けて、はなむけの言葉として贈りました。

その後、在校生を代表してMHさんが先輩方への感謝の言葉を「卒業生を送ることば」の中で切々と述べ、それを受ける形で、卒業生を代表してOKさんが「卒業生のことば」を述べました。卒業に当たっての心境と3年間の思い出、そして成長した自分たちの姿を振り返りながら、溢れる周りの方々への感謝の気持ちを述べました。

最後に、「さよなら友よ」と「けっして忘れない」を合唱し、感動の中で式が終わりました。卒業生が、輝く未来に向かって力強く歩いていくことを祈りたいと思います。

3年生に感謝 予餞会

3月8日（木）5、6校時に予餞会を行いました。実行委員が中心となって、毎日遅くまで準備を行い、1、2年生が先輩方に感謝の気持ちを伝えました。

会ではまず始めに、1、2年生が制作したモザイク画の披露がありました。次に1年生のダンス、合唱、2年生の合唱、ダンス、男気応援の披露があり、その後、部活ごとのメッセージや転勤された先生からのビデオレターのプレゼントがありました。最後に3年生から、合唱と後輩へのエールが送られました。熱気の中にも、3年生とのお別れを待つ一抹の寂しさも感じられる会となりました。



ほんの少し前まで校庭を覆っていた白い雪も姿を消し、快い春の風を感じる季節となりました。私たち赤学年の門出をこんなにも多くの方々に祝福していただけることをとてもうれしく思います。時の流れは本当に速いもので、この長町中学校で過ごした三年間は、夢のように過ぎていきました。十五の春を輝く笑顔で迎えるために、自分自身と闘ってきた私達、チームレッドは、今、卒業証書を手に、新しい扉を開こうとしています。3月10日。いつもとは少し違う朝を迎え、着慣れた制服に着替え、気持ちは複雑でした。(この制服を着て、みんなと学校で過ごすのも、今日が最後) そう思うと、寂しさが胸にこみ上げてきました。学校に向かい、教室に入ると、いつもと変わらぬ友の笑顔がありました。窓から見える風景にも、使い慣れた机、椅子などにも、たくさんの思い出がぎゅっと詰め込まれています。その、たくさんの思い出の場面が今、私の脳裏によみがえってきます。



三年前の四月、緊張して臨んだ入学式。力強く返事をした時、中学校生活のスタートを切ったのだと感じました。三階の教室で過ごした二年間。毎日が新鮮な驚きの連続でした。昼休み、一斉に外に飛び出し、懸命にボールを追いかけて、みんなで楽しんだサッカーやバレーボール。時には泥だらけになりながらも、走り回っていた友の輝く笑顔は忘れられません。放課後、私達が情熱を傾けた部活動。先輩方の姿を見て自分も頑張ろうと決意した日々。練習が苦しくて、嫌になった時もありました。また、部員の心がバラバラになり、悩んだこともありました。しかし、仲間の協力がいつしかその苦しみをいやしてくれました。三年間、青春を燃やした部活動も気がつけば、もう引退。悔し涙を流した時もあつたけれど、私達の心に刻まれた思い出は、キラキラと輝いています。今、長中生として仲間と本気で取り組んだシーンが次々と浮かんできます。まだ互いにぎこちなかった私たちが初めて絆を深められた一年生での校外体験学習。泥を踏みしめ、無我夢中で稲を植えた田植え体験では、友との支え合い、皆で丸となって取り組むことの大切さと楽しさを知ることができました。二年生に進級した私たち。部活動や生徒会活動における役割が大きくなる中で、「これから自分たちが長中を引っ張っていくのだ。」という自覚が芽生えてきました。予餞式は、先輩方の手を借りずに自分たちだけで先輩に思いを伝えることができた行事の一つでした。未知の土地での自主研修を見事に成功させた三年生での修学旅行。ディズニーランドやクラス別研修など、仲間と過ごす楽しい時間が夢のように感じられました。「合唱の長町」の伝統を引き継いだ最後の合唱コンクール。何度も何度も歌い、時間を惜しんで練習に励んだ自由曲。初めての東京エレクトロンホールに、私たちのハーモニーが響き、すばらしい歌の祭典となりました。九月に行われた体育祭。一番心に残っているのはやはり応援合戦ではないでしょうか。後輩にダンスを教えることは簡単ではなく、苦勞した場面も多くありました。しかし、試行錯誤を重ねた分、丸丸となって一つのダンスを作り上げたときの充実感と喜びを味わうことができました。時は流れ、やがて迎えた厳しい冬。私達、三年生にとっては試練の冬でした。朝早くから夜遅くまで勉強に励んできた私達を支えてくれたのは、家族の温かな思いやりでした。諸先生方の大きな愛でした。当たり前のように過ごしてきた長町中学校での生活も今日が最後です。この卒業式が、私達の「最後の授業」となります。時が過ぎ、もうすぐ終わりのチャイムが鳴ろうとしています。今思えば、長中生だからこそ、そして、この仲間だからこそ、こんなにも物びのびと、熱く燃えることができたのだと思います。私達は、うれしい時、辛く悲しい時も決して一人ではありませんでした。かけがえのない大切な人がいつもそばにいてくれました。いつも私たちに道しるべとなる言葉を贈ってくださった新山校長先生、私達に愛情を注ぎ、たくさんの宝物を与えてくださった田桑先生、諸先生方、ありがとうございました。委員会でも部活動でも、私達に、最後までついてきてくれた 在校生の皆さん、ありがとうございました。長町中学校をみなさん一人一人の手で、さらに発展させてください。そして、私達をここまで育て、いつくしんでくれたお父さん、お母さん、本当にありがとうございました。素直になれず、一言一言に反抗してしまった時もあつたけれど、いつも私達を支え、大きな愛で包んでくれたからこそ、こんなにも大きく成長することができました。三年間通い慣れた通学路。笑顔があふれた教室。元気な声が響いた校庭や体育館。この場所でみんなと出会い、時には本気でぶつかり、泣いたことや悩んだこともありました。明日からは、もうみんなとこの場所で会い、一緒に学ぶことはありません。けれども、私達の心の中には長町中での思い出という絆があると確信しています。多くの感動をありがとう。

永遠だと思っていた時が 今、思い出となっていく もうすぐ君と別れの時 こんなに小さな出会いだけれど たとえ世界が変わっても ずっとずっと 忘れないから

私達卒業生は、夢の力を信じ、消えることのない絆を胸に、それぞれの道を力強く歩んでいきます。ありがとうございました。母校、長町中学校の益々のご発展を祈念し、卒業生のことばといたします。

平成30年3月10日